

NEWS LETTER

Vol.2 開催日2019.6.27

発行：基幹型包括支援センター
NPOまち育てセンター、岡崎市長寿課
20の地域包括支援センター

～地域包括ケアと地域共生社会の実現に向けた学びを共有するゼミ～
会議運営支援モデルの取り組みを紹介します。

広報のためのワーキンググループ立ち上げへ
by 中央包括（梅園学区）

包括支援の狙い
学区に横のつながりを作り情報や課題を共有することで、各町の取り組みを互いに意識しながら見守り体制や通いの場作りにつなげる。

【目指す学区の姿】向こう三軒両隣のコミュニケーションづくり
【地域特性】学区が広く、幹線道路が通り、町内ごとの年齢構成割合や生活課題が異なる。古くからあるまちは、高齢化率が40%を超えるが担い手不在により、通いの場等を作るのが難しい。籠田公園の整備後、運営を検討中。
【キーパーソン】学区福祉委員長、梅園協議会長
【経過】5月：包括と学区福祉委員長が打ち合わせ。「各組織のつながりが無い。他の組織が何をしているかわからないから、住民に発信するためにも、活動を一覧にまとめた。」協議する場合は、各団体が集まる梅園協議会とした。
【成果】6月6日：梅園協議会にて、福祉委員長より投げかけ。賛同を得ることができ、ワーキング立ち上げについて全員で方針を確認。（仮称）梅園新聞を作って、毎月回覧するのはどうかという提案あり。
【課題】（仮称）梅園新聞について積極的な発言のあった人達は、高齢者支援に関わる組織ではなかったため、ワーキングメンバーから外れる予定であること。
【助言】梅園学区福祉委員会は、HPや機関誌を発行する機能がないため、他学区の事例を紹介して、学区に広報担当者を作る動機づけとしてはどうか。広報担当者は、高齢者支援組織のメンバーから選定する必要はないので、若い人も取り込める可能性あり。

今回のキモ！



高齢化率の見える化
町内単位で課題意識を持っている住民が多いことから、小学校区ではなく、町内の高齢化率をe-statを使って作成。課題を「我が事」にすることに成功した。

包括支援の狙い
市営住宅、空き家、公園活用という異なる課題に対して、関係者をつなぐことで、新たなネットワークとコミュニティ拠点作りを目指す。

市営住宅と公園と空き家活用の取り組みをつなぎたい
by 北部包括（岩津学区）

今回のキモ！

市営住宅集会所の活用 (人と人がつながる場)

課題と担い手のマッチング

- ① 課題の可視化アンケート
- ② 担い手の掘り起こし

外部の社会的資源の活用

- ① 公園愛護運営会
- ② いわづハウス（Co民家）
- ③ なごみん

- ① 市営住宅、② 空き家活用、③ 公園活用の3つの取り組みを包括がつなげることで、新しいネットワーク、活動を目指す。

編集後記：生活支援コーディネーターの仕事って何だろう、みんな何をしているんだろうという不安から始まった包括ゼミ。地域に入り込むのは難しいけれど新たなつながりにやりがいも面白さも出てきているのが本当にすごい！

【目指す学区の姿】学区として共有された課題はない。協議体を作りたいという動機づけ支援のために、課題の見える化、キーパーソンをつなげてネットワークを構築している。
【地域特性】学区福祉委員会の歴史が浅く、役員も充て職の交代制や担い手不足のために、地縁型組織としての取り組みや課題意識の共有が他学区よりも弱いと考えられる。市営住宅は、高齢化率も高く、母子家庭や外国人の割合も高いため、役員の負担が大きい。公園緑地課が進める公園愛護運営会を立ち上げた岩津公園と、コミュニティ拠点化を目指している「いわづハウス」、市営住宅、北部地域福祉センターが近接している。
【キーパーソン】いわづハウスと公園愛護運営会を進めている障がいデイの管理者、市営住宅の民生委員・総代
【経過】3月：民生委員より、「助けてほしい人が多いが一人ではやりきれない」という相談を受け、包括より市営住宅の民生委員・総代に豊橋三本木の取り組みを紹介。手法を取り入れてニーズ把握と担い手確保に向けたアンケートを作成することに決める。
【成果】6月：市営住宅の組長会議でアンケート実施について説明。高齢化率の見える化し、課題を共有。町費を集める際に、アンケートの配布と回収を行うことを確認した。冷房のある集会所を開放し、憩いの場を目指す。
【課題】市営住宅は、母子家庭や外国人も多く、高齢者のみの課題意識では若年層の協力は得られにくい。
【助言】公園活用に参加している似顔絵の先生がいわづハウスで、市営住宅の子どもたちの夏休みのポスターの宿題を見ることができたらいいのでは？民生委員さんが書初めの指導もできそう。